



京成グループ中期経営計画 「F4プラン」の進捗状況について



2009年11月20日
京成電鉄株式会社

目次



F4プラン(2008年3月期～2010年3月期)の進捗状況

- | | |
|-------------------------------|--------|
| 1. 2010年3月期通期の業績予想 | ・・・P1 |
| 2. F4プラン数値計画達成目標との比較 | ・・・P2 |
| 3. 新線開業に向けた事業推進 | ・・・P3 |
| 4. コア事業(運輸業)の基盤強化 | ・・・P4 |
| 5. 事業エリアの集中及び保有資産の活用 | ・・・P6 |
| 6. お客様第一主義の徹底及び「京成ブランド」の浸透 | ・・・P7 |
| 7. グループ経営推進体制の強化 | ・・・P8 |
| 8. 次期長期経営計画の策定(2010年度～2021年度) | ・・・P9 |
| 9. 次期中期経営計画の策定(2010年度～2012年度) | ・・・P10 |

2010年3月期通期の業績予想

◇当初予想(2009年3月期決算短信発表5/12)との比較

| | 2010年3月期 | | 増減率 |
|---------------------|--------------------|-------------------|-------------|
| | 今回予想 | 当初予想 | |
| 営業収益 | 2,422億円 | 2,526億円 | △4.1% |
| 営業利益 (営業利益率) | 208億円 (8.6%) | 238億円 (9.4%) | △12.6% — |
| 経常利益 | 194億円 | 214億円 | △9.3% |
| 当期純利益 | 110億円 | 129億円 | △14.7% |
| 有利子負債 (EBITDA倍率) | 4,200億円 (10.0倍) | 4,200億円 (9.3倍) | 0.0% — |

※EBITDA倍率=有利子負債 ÷ (営業利益 + 減価償却費)

F4プラン数値計画達成目標との比較

| | F4プラン | | | F4プラン 最終年度 2010年3月期 |
|---------------------|-------------------|-------------------|--------------------|---------------------------|
| | 2007年度 (実績) | 2008年度 (実績) | 2009年度 (予想) | |
| 営業利益 (営業利益率) | 236億円 (9.9%) | 230億円 (9.9%) | 208億円 (8.6%) | 250億円以上 (10.0%以上) |
| 経常利益 | 204億円 | 207億円 | 194億円 | 190億円以上 |
| 有利子負債 (EBITDA倍率) | 4,220億円 (9.9倍) | 4,100億円 (9.6倍) | 4,200億円 (10.0倍) | 4,500億円以下 (10倍以下) |

※EBITDA倍率=有利子負債 ÷ (営業利益 + 減価償却費)

新線開業に向けた事業推進

＜成田新高速鉄道プロジェクトの推進＞

日暮里駅改良工事の推進(2009年度中竣工予定)

新・下り線へ切替実施、下りスカイライナー専用ホーム供用開始(2009年10月)

高砂駅金町線高架化工事の推進(2010年春竣工予定)

新型スカイライナー(8両8編成)及び一般特急用車両(8両6編成)の導入開始

新型スカイライナーを1編成導入し、京成線内試験走行等を実施中(2009年8月～)
一般特急用車両を1編成導入予定(2010年1月)

成田高速鉄道アクセス(株)による新線区間の建設及び既存施設の改良

新線区間:軌道敷設工事を推進中(2010年3月完成予定)

成田湯川駅:駅舎建築工事を推進中

北総線内:開業準備工事完了

空港2駅:空港第2ビル駅増設上り線を先行供用開始(2009年11月)

新座席予約システムの開発(2009年度)

運賃・料金、運行ダイヤ等の検討

開業後の輸送人員・収入等を含め総合的な分析及び検討を継続

コア事業(運輸業)の基盤強化①

＜安全対策の継続＞

押上線連続立体化工事の推進

墨田区内の仮下り線切替工事実施(2009年8月)

※完成により踏切全8箇所廃止予定

葛飾区内の用地取得を継続実施

※完成により踏切全11箇所廃止予定

ヒューマンエラー、ヒヤリ・ハット情報の収集及び活用

「見過ごすと事故につながる可能性のある事実」を確実に把握するため、
情報をデータベース化し活用

＜更なる利便性向上・需要喚起策の実施＞

スカイライナー利用促進策の実施

外国人向け企画乗車券『スカイライナー&メトロパス』の発売(2008年7月～)

外貨両替専門店の増設

成田空港2店舗に続く3店舗目を京成上野駅構内に開設(2009年7月)

創立100周年記念列車の運行・記念乗車券の発売

往年の人気カラーに塗装した記念列車の運行、全駅記念入場券の発売等

コア事業(運輸業)の基盤強化②

<利便性の向上と競争力の強化>

高速バス路線の拡充(2009年度実績)

東京ディズニーリゾート線:新設1路線

東京駅線:新設2路線、増便1路線

(東京駅線新設路線のうち、1路線がマイタウン・ダイレクトバス)

高速バス路線への無線LANによるインターネット接続サービス導入

京成バスの高速バス148台へ導入(2009年8月)

『マイタウン・ダイレクトバス』の運行

郊外住宅地から直接都心部へ乗り入れる通勤等路線の運行

新浦安・東京ディズニーリゾート～東京駅・秋葉原駅(2009年3月)

千葉市稲毛区・花見川区～東京駅(2009年5月)

<地域公共交通活性化法の活用>(国の補助金を活用した公共交通の高度化)

千葉市幕張地区の連節バス運行に適用

江戸川区環七シャトルバス運行に適用

事業エリアの集中及び保有資産の活用

<グループ資産の有効活用>

市街地中心にあるバス・タクシー営業所等を郊外へ移転し、跡地を有効活用
周辺環境に応じて、賃貸開発、住宅開発を計画・実施

賃貸開発:安定的収益源となる賃貸資産の拡充

- ・ 京成成田駅前ビジネスホテル【成田市花崎町】(2009年6月)
- ・ 賃貸型保育施設【京成金町駅前】(2010年4月稼働予定)
- ・ リブレ京成店舗【千葉市中央区】(2010年度稼働予定)
- ・ 空港関連企業向け賃貸施設【成田市花崎町】(2010年度稼働予定)
- ・ 高齢者向け賃貸施設【千葉市中央区】(2011年度稼働予定)

分譲マンション・戸建開発:沿線活性化に寄与する住宅開発

早期完売に向けプロジェクトチームによる販売活動を実施

中高層住宅

- ・ サングランデ千葉みなと【千葉市中央区】、サングランデ印西牧の原ドアシティ【印西市】

戸建住宅

- ・ 稲毛ローズタウン【千葉市稲毛区】、公津の杜建売住宅【成田市公津の杜】

<BMK(ベストマナー向上)推進運動の継続>

<100周年記念事業の実施>

<京成カードの利便性拡大>

外部ポイント提携の拡大

ANAマイレージ(2009年4月～)、毎日新聞社(2009年10月～)

<ICカードPASMOへの対応>

電子マネーサービス取扱箇所の拡大

取扱箇所を1,300ヶ所以上に拡大(2009年9月末現在)

帝都自動車交通のタクシーへ導入(2009年7月)

リブレ京成の全店舗へ導入(2009年度内予定)

グループ経営推進体制の強化

<鉄道、バス、タクシーの事業別業務連絡会の運営>

鉄 道 : 車両・資機材の共同購入、貯蔵品の適正化

バ ス : 車両・タイヤの共同購入、車両・機器の仕様統一、
燃料高騰対応策の実施、経費削減策・増収策の検討

タ ク シ ー : タクシー共同無線の導入検討(一部導入済み)、人材
確保へ向けた施策の共有、燃料高騰対応策の実施

<コンプライアンス・リスク管理委員会>

グループ全体の事業継続に影響を及ぼすリスクを統一的に管理

新型インフルエンザの対応方針をグループ各社に制定

定期的なリスク調査により、管理対象リスクの評価、見直しを実施

次期長期経営計画の策定

京成グループを取り巻く環境の変化に適切に対応し、各セグメントでの堅実、着実な事業成長を目指す。

＜計画名称＞ 『Evolution Plan(進化プラン=Eプラン)』

＜計画期間＞ 2010年度～2021年度(12ヶ年計画)

＜長期ビジョン＞

グループ事業の中核である交通運輸事業の競争力・収益力を更に強化すると共に、千葉県北西部(特に京成線・新京成線・北総線沿線)並びに東京都東部を地盤として地域に密着した堅実な総合生活産業を展開し、地域経済を代表する企業グループの地位を拡充する。

次期中期経営計画の策定

長期経営計画Eプランの第1ステップとして次期中期経営計画『E1プラン』を策定中。

＜計画名称・期間＞ 『E1プラン』 2010年度～2012年度(3ヶ年計画)

＜基本方針＞

- 成田新高速鉄道の開業を踏まえた、鉄道事業の収益力の強化、及び京成グループ全体のイメージ向上と沿線地域の活性化の推進
- コア事業(運輸業)を中心とした堅実な事業運営の推進
- 相応の営業キャッシュフローの創出と適正な設備投資による財務体質の強化
- 安定的な事業成長を実現するための投資案件の選別・適正化
- グループシナジーの最大化とブランド価値向上による競争力の強化

＜計画期間の予定事業＞

成田新高速鉄道開業(2010年度)

押上線連続立体化工事推進

本八幡A地区再開発事業、押上・業平橋駅周辺開発事業への参画

本資料の情報のうち、過去の事実以外のものは将来の見通しであり、リスクや不確実性を含んだものです。
実際には、様々な要因により異なる結果となる場合があることをご承知おきください。